

勝海舟 生誕200周年記念

海舟の足跡

HISTORIC SITES OF KATSU KAISHU IN SUMIDA RIVER

勝海舟の目線で歩く墨田区史跡マップ～隅田川篇～

つねだにも 住まゝくほしき 隅田川
わが故郷と なりにけるかな

海舟が無血開城後、江戸を引き払って静岡へ移る際に、隅田川を詠んだ詩。



たちかへる 我が古里の 隅田川 昔忘れぬ 花の色かな

晩年に海舟が詠んだ隅田川の詩。かつて江戸を去る際に詠んだ自身の詩(表紙)に対をなすかたちとなっている。

隅田川の墨堤に桜が植えられたのは八代将軍吉宗の時代。

以来、隅田川の堤は桜の名所として多くの人々に愛され、海舟も花見に訪れた記録があります。

明治十五年の四月九日には宮島誠一郎や税所篤と花見に出かけたようです。

海舟にとって墨堤の界隈は桜だけではなく、若き日に剣や禅の修行に精進した思い出の地でもあります。

また維新後は、幕末以来の盟友である永井尚志や榎本武揚らを訪ねることもしばしばで、

愛用の料亭、枕橋八百松にもよく足を運びました。

維新前後の海舟の面影を探して、隅田川の堤を歩いてみましょう。





16 多聞寺 墨田5・31・13

海舟が愛用した枕橋沿いの料理屋・八百松【2】は、名料亭・八百善で修行した小山松五郎が、明治二年に水神社(隅田川神社。※当時はもう少し北側に鎮座)【14】で開業したのがはじまりです。現在も隅田川神社と隣接する木母寺【15】に八百松が奉納した石柱などが確認できます。

13 永井尚志邸(岐雲園)跡 墨田1・4付近

維新後は海舟とともに、徳川家の土地を管理した永井の屋敷跡。永井尚志は幕末、海舟が生徒監として派遣された長崎海軍伝習所の総監です。維新後の明治九年、永井は海舟と相談し、親友であった岩瀬忠震の旧居居「岐雲園」を買取り、ここに隠棲しました。

12 白鬚神社 東向島3・5・2

海舟が修繕費を寄付した。海舟の明治十九年四月九日の日記に「白鬚社修繕として五円遣わす」との記載があり、白鬚神社へ修繕費を寄付したようです。

11 大倉喜八郎別邸跡 堤通1・1・2

海舟が珍しく一泊した大倉喜八郎の別邸。向島には大倉財閥の創設者である大倉喜八郎が明治十二年に建てた別邸がありました。海舟は明治十四年の一月四日にここへ招かれ、珍しく一泊したことを自身の日記に綴っています。

10 榎本武揚旧居跡 向島5・12

日記に「大碑」と綴った、思い出の榎本武揚邸跡。海舟と榎本武揚は、長崎海軍伝習所以来の仲で、それぞれ複雑な運命を歩みながら、晩年まで交流を続けました。維新後の明治十三年三月六日、海舟は榎本に招かれて、向島の別邸を訪れています。

9 弘福寺 向島5・3・2

海舟が剣術修行に加え、禅の修行に励んだ禅寺。海舟は若き頃、剣の師である島田虎之助より「剣術の奥意を極めるには、まず禅学をはじめよ」と教えられ、弘福寺での禅修行に励みました。

5 牛嶋神社 向島1・4・5

若き修行時代の海舟が剣術の夜稽古に励んだ神社。隅田公園に隣接する牛嶋神社が現在の地に移ったのは関東大震災後のこと。以前は海舟が禅修行に励んだ弘福寺の裏側、隅田川沿い【8】に鎮座していました。

8 旧牛嶋神社跡 向島5・1

海舟が修行した当時の牛嶋神社は、弘福寺の裏側、隅田川沿いに鎮座していました。現在、その跡地には旧牛嶋神社を示す石碑が建立されています。

4 枕橋八百松跡 向島1・1「源森川水門」付近

海舟が愛用し、公私ともに信頼した枕橋の料理屋跡。隅田川の枕橋沿いには、かつて八百松という海舟愛用の料理屋がありました。明治二年に水神社(隅田川神社)の地【14】で開業し、二年後、枕橋のたもとに開いた支店が大きな評判を呼んだといわれます。

3 二峯先生之碑 向島1・3「隅田公園」内

海舟が筆額を認めた隅田公園の石碑。隅田公園に建つ書家の高林二峯を讃えた碑。二峯が亡くなった翌年の明治三十一年に円通寺(押上)に建てられたもので、後に隅田公園に移されました。

「山本や」の桜もちと幕末維新。隅田川の名物といえば「山本や」の桜もちがよく知られます。「山本や」は享保二年に創業されました。実は幕末の頃、「山本や」が評判であったのは、味はもちろん、看板娘の存在も大きかったそうです。

6 鳥井京山窯跡 向島2「墨田区立小梅小学校」裏

海舟が作陶に動しんだ。小梅小学校の裏側、隅田川沿いにはかつて「京山焼」、あるいは「隅田川焼」と呼ばれる鳥井京山の窯がありました。京山は十二代將軍家慶より城へ召し出され、作陶を披露したことで話題となり、以後、諸大名の愛顧を受けた陶工です。



烏井京山窯跡



勝海舟像

吾妻橋1・23「墨田区役所うるおい広場」

海舟が山岡鉄舟が撮影に訪れた写真館。海舟を写した写真に、天の橋立の書割を背景にしたものがあります。この写真は明治二十年十月頃、金丸源三の写真館で撮影されたものと見られています。

1 金丸源三写真館跡 吾妻橋1「駒形橋」付近



榎本武揚は晩年、よく百花園に足を運び、御成座敷で酒を愉しみながら、詩をつづったそうです。墨堤の桜の由来を記した碑。筆額は晩年、界限に住み、桜の堤を築いた榎本武揚の筆によります。

9 弘福寺

墨堤の桜の由来を記した碑。筆額は晩年、界限に住み、桜の堤を築いた榎本武揚の筆によります。

3 二峯先生之碑

隅田公園の地は江戸時代、水戸徳川家の下屋敷でした。維新後、水戸徳川家の本邸となり、明治8年には明治天皇が当地で、花見の宴を開きました。その際、山岡鉄舟によって天皇へ献上されたのが、駿府へ移った旧幕臣たちが、海舟らの勧めで作った牧之原茶と、木村屋のあんぱんでした。

1 金丸源三写真館跡

同日に撮影されたと思われる海舟と鉄舟の写真。背景の書き割りを合わせる、両者の体格差が分かります。

1 金丸源三写真館跡

同日に撮影されたと思われる海舟と鉄舟の写真。背景の書き割りを合わせる、両者の体格差が分かります。

1 金丸源三写真館跡

同日に撮影されたと思われる海舟と鉄舟の写真。背景の書き割りを合わせる、両者の体格差が分かります。

1 金丸源三写真館跡

同日に撮影されたと思われる海舟と鉄舟の写真。背景の書き割りを合わせる、両者の体格差が分かります。

コラム・木下川にあった海舟の別邸

梅屋敷は大正時代に行われた荒川放水路の開削などにより、現在その面影は全く残されていませんが、東墨田東公園（東墨田三丁目十九番一〇）に史蹟を示す説明板が設置されています。

旧中川の埋立地で、現在の木下川水門の近く（東墨田三丁目付近）には明治時代、海舟の別荘と伝わる木下川梅屋敷がありました。実際には海舟の別荘ではなく、徳川家の土地で、運用のために海舟が買い上げたものです。はじめ海舟は当地を、徳川將軍家の靈廟に備えて購入したようです。維新後、徳川家にとって寛永寺や増上寺にある將軍家靈廟の保全が、大きな課題となっていました。海舟は取り壊しなどに備えて、この土地を用意しましたが、やがてその心配もなくなると、当地は別荘としての役割が大きくなっていきました。何しろ界隈は江戸時代から梅見で知られた名勝地で、約三百株の梅樹が植えられていました。当地には梅屋敷と呼ばれる屋敷があり、海舟の妾である森田米子の母・於元によって、管理がなされました。

以後、海舟は多くの人々と木下川梅屋敷へ出かけ、時には宿泊することもありました。海舟の日記を見ると、永井尚志をはじめ津田仙や吉井友実、松平春嶽、岡本黄石、副島種臣といった名前が確認できます。

海舟は西南戦争で散った盟友・西郷隆盛のため、ここに留魂碑の建立を計画しましたが、さすがに「賊将」となった西郷を慰霊する碑を、徳川家の土地に建てるのは不穏当だということになり、近くの浄光寺に建立しました（現在、この碑は海舟が眠る大田区・洗足池の墓所隣地に移築されています）。明治十六年十一月二十四日、海舟は西郷の遺児である菊次郎らと浄光寺へ行き、留魂碑を見せました。黒田清隆や税所篤、町田久成ら旧薩摩藩士たちが同行し、この日は梅屋敷に一泊したようです。

梅屋敷は大正時代に行われた荒川放水路の開削などにより、現在その面影は全く残されていませんが、東墨田東公園（東墨田三丁目十九番一〇）に史蹟を示す説明板が設置されています。

協賛・協力

勝海舟顕彰会 <https://katsu-kaisyu.net/>

会長	廣田 健史
実行委員長	長谷川 由美
副実行委員長	久力 一雅
役員	長岡 靖浩 平野 善彦 佐伯 彰一 渡邊 秀行 山口 千鶴子 大谷 浩一郎 下村 みどり
顧問	高山 みな子
相談役	板橋 秀幸

片山 真一
松田 文史
猪越 太一
杉山 正純
後原 健
大塚 武敏
中川 圭造

東京向島ロータリークラブ <https://tokyomukoujima-rc.org>

2022-2023年度 会長 小松崎 慎一
2023-2024年度 会長 杉本 浩志

(公社)東京青年会議所墨田区委員会
<https://tokyo-jc.or.jp/sumida/>

本所防犯協会 <https://honjyo-bouhankyokai.jp>

日本大学校友会東京都第六支部

日本大学校友会墨田桜門会

向島消防少年団
<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-mukoujima/bfc/index.html>

墨田区観光協会 <https://visit-sumida.jp>

(株)環境整備 <https://www.kankyoshibi.com>



写真出典

【表紙】勝海舟肖像(射和文庫蔵)/Approach to the Sumida Banks[From the Azumabashi Side](アムステルダム国立美術館蔵)
【折込頁】勝海舟肖像(三澤敏博蔵)/Scene Sumida River at Mukojima,Tokio(ニューヨーク公共図書館蔵)/Distant View of the Banks-Ferry-boats・Tea-Houses along the Bank・On the Way Home・Plezierboot op de Sumida-rivier in Tokyo・Edge of Bank(アムステルダム国立美術館蔵)
【裏表紙】東都名所図会隅田川渡しの図【歌川広重初代】(アムステルダム国立美術館蔵)
【中頁】勝海舟肖像(名古屋博物館蔵)/山岡鉄舟肖像(福井市郷土歴史博物館蔵)/明治時代の枕橋と八百松(『東京名所写真帖 Views of Tokyo』明治43年)/明治時代の枕橋・明治時代の八百松・明治時代の牛嶋神社(『東京名所圖會』明治41年)/関東大震災で焼失する以前の弘福寺(『東京市史蹟名勝天然紀念物写真帖 第1輯』)/海舟が作陶した京山焼(写真提供:高山みな子氏)/榎本武揚肖像(『寫眞百年祭記念號』アサヒグラフ臨時増刊)/大倉喜八郎肖像(国会図書館蔵)/永井尚志肖像(『幕末名家寫眞集 第1集』)/隅田川神社の地にあった八百松(『隅田町誌 併合記念』)/東都名所八景之内 隅田川落雁(国会図書館蔵)/江戸名勝図会 墨田川(国会図書館蔵)/隅田川両河岸一目の月(国会図書館蔵)/隅田川はな盛(国会図書館蔵)

監修・テキスト:三澤敏博(『江戸東京に遺る勝海舟の足跡』、『勝海舟関係写真集』) 高山みな子(『勝海舟関係写真集』)

企画・制作・デザイン・発行元 サンピース・グラフィックス株式会社

お問合せ 東京都墨田区錦糸2-8-11 トウダアレイビル2F サンピース・グラフィックス株式会社
(担当:三澤) TEL▶03-5608-1971 <https://sun-piece.com>



同時配布中!

海舟の足跡 本所篇

勝海舟の目線で歩く墨田区史跡マップ

web site!

海舟の足跡

katsukaishu.site

